

● 住民ひとりひとりがつくる、小さな活動が連続した集合体としての交流拠点



【ランドスケープと融合した建築計画】

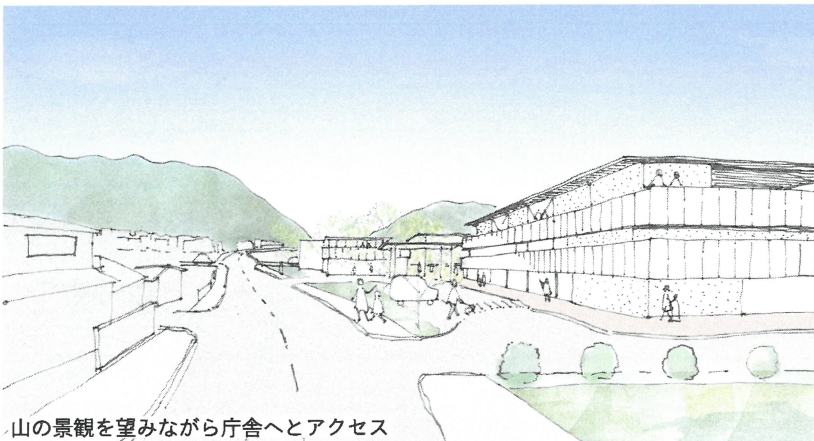
● 井手町らしい緩やかな地形に沿った段々テラス

井手町の景観の特徴でもある緩やかな地形を生かした、町民に親しまれるランドスケープデザインとします。既存の地形を評価して生まれた、棚田状に連続したテラスは、建築プログラムとも連動し、例えばブックテラスやビューテラスなど個性を持ったテラスを生み出しており、人々はこのテラスで想い想いの時を過ごすことができるようになります。

敷地にある棚田風景



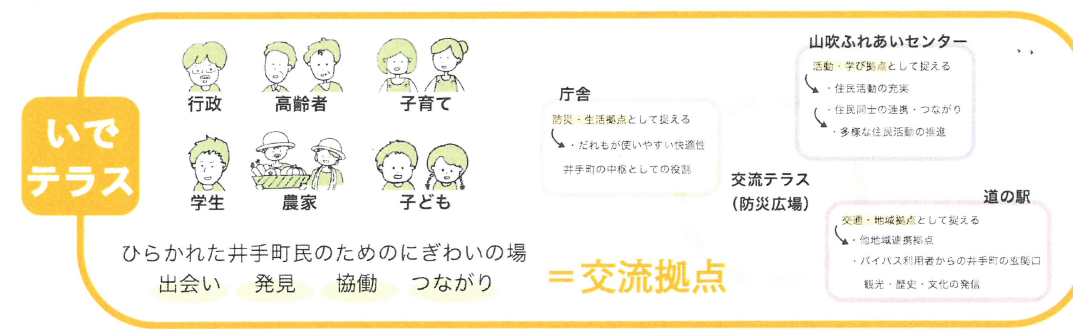
駐車場は土地の傾斜に合わせた緩やかな勾配を持って計画されテラスを包むように配置。



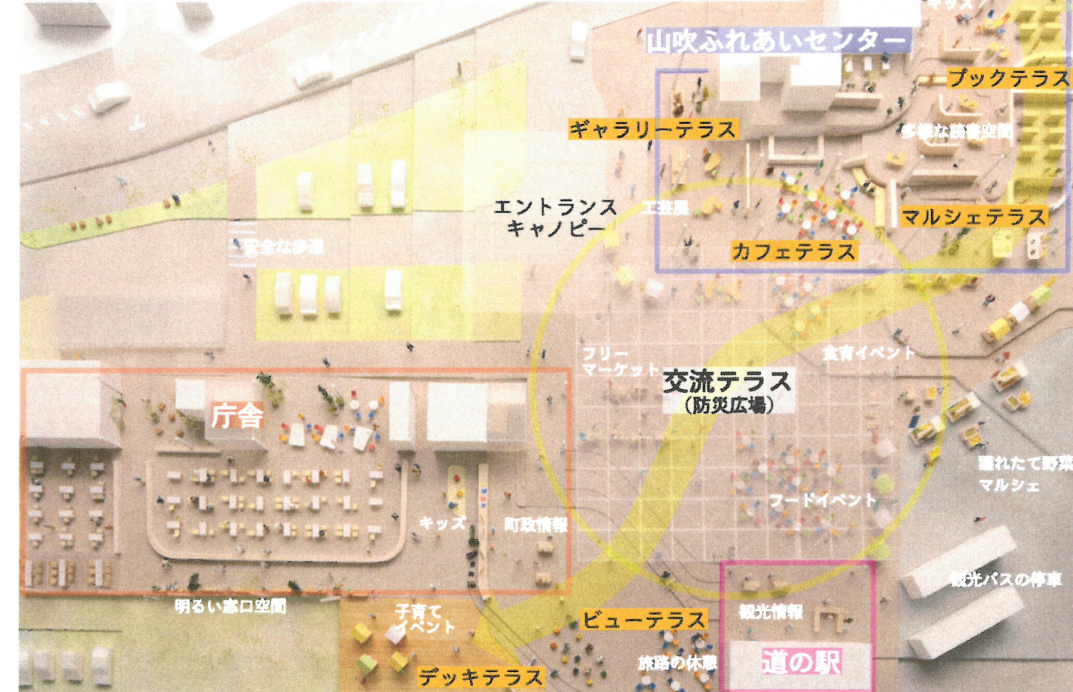
山の景観を望みながら庁舎へとアクセス

【3施設の連携・機能分担】

● テラスを手がかりにつくる領域が重なり連続するグランドレベル



町の中核である庁舎と、町民活動の受け皿である山吹ふれあいセンターと、新たにできるバイパス沿いの交通拠点である道の駅から成る複合拠点としての「いでテラス」は、行政と町民が連携して町内外への発信を強める「井手町の交流拠点」となります。各施設での機能は担保しつつも、交流テラスを中心に空間的にもつながることで機能補完や活動連携が日常的に行われる創造的な場を目指します。



● 交流・協働・憩いの場があふれる“いでテラス”のシーン



デッキテラスと連続する庁舎1階の執務空間 わかりやすい窓口機能や情報コーナーを含むエントランスロビーがテラスと連続し、誰もが利用しやすい、開かれた庁舎となります。

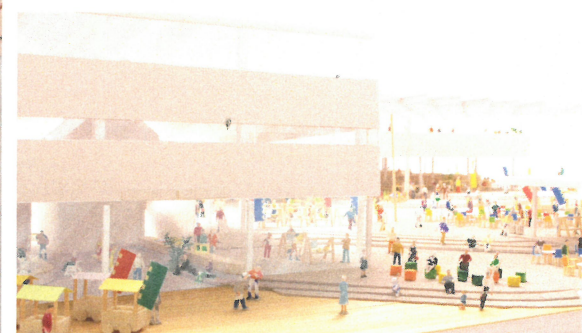
テラス状に連続する山吹ふれあいセンター ギャラリー、カフェ、ショップ、ブック (図書) スペースなどの町民の居場所が程良い領域をつくりながら一体空間で連続します。



交流テラスから庁舎をみる 様々な活動が可能な大屋根のかかる交流テラス。庁舎の内部にテラスが連続し、一体的な活用も可能です。



交流テラスと連続する道の駅 道を軸にした地域間交流・情報発信の拠点。地域産の野菜朝市やグルメフェスなど、広場まで使ったイベントでは場の盛り上げをサポートします。



デッキテラスから交流テラスをみる 庁舎の南側のデッキテラスは山吹ふれあいセンターから連続するテラスが立体的に見える



府道から交流テラスへのアプローチ 交流テラスの大屋根が町民を迎え入れます。